

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表： 令和3年 4月 7日

事業所名 ゆめみたす

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	2	
	2	職員の配置数は適切である	13		法令で定められた人員基準と、プラスの人員を常に配置しています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	13		床をフラットにしたり、クッションマットを敷いたり、同じ空間で全員が過ごせる工夫をしています。トイレの手すりは設置しましたが、玄関周り等もう少し改善できる場所もあると思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	13		15人近くいると狭く感じ但也有ありますが、場所を振り分けたり、近場の公園などを有効活用する等して、楽しみながら安全に過ごせるよう配慮しています。時折職員や児童の人数が多く、密に感じるときには喚起を徹底しています。児童や職員の手に触れる場所や物は常に消毒しています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	12	1	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	1	外部との関わりや意見を聞くことはありますが、専門機関などを利用しての評価は行っていません。今後、大阪府の認証した第三者評価機関の利用も検討しています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12	1	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	5	外部との関わりや意見を聞くことはありますが、専門機関などを利用しての評価は行っていません。今後、大阪府の認証した第三者評価機関の利用も検討しています。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	2	事業所内に福祉専門の行政書士の先生をお招きし、知識研修を行いました。また、大阪府強度行動障がい支援者養成研修や外部のセミナーなどにも積極的に参加し、そこで得た内容を事業所内に持ち帰り、共有しています。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12	1	必要に応じて保護者様や支援機関の担当者様から情報収集を行い、可能な限り客観的な計画を作成できるよう努めています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	2	事業所内では、特に知能検査・発達検査を行ってはおらず、独自の判断基準となっています。今後の使用を検討しています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	11	2	全ての職員が、ガイドラインの内容を普段の支援の基本として行えるよう、事業所内で閲覧できるようにしています。今後、ガイドラインを基に活動しているという意識付けをさらに行っていきます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12	1	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	13		職員全員で季節ごとのイベントやプログラム内容を企画・提案しています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13		職員の前職や得意分野も様々なので、個性を生かしたプログラムを行っています。また、外部の先生をお招きしてワークショップを行ったり、他事業所さんで作業所で体験をさせて頂いたりしました。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	12	1	お子様それぞれの特性に合わせて、無理のない範囲で目標を設定するようにしているので、その時々で状況で支援活動は組み合わせています。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11	2	シフト制の為、毎日全員がそろって同じ時間に打ち合わせというのは難しいですが、始業前に各々で申し送りノートを見たり、重要なことは口頭で伝えあっています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13		上記と同じく、送迎後に全員がそろうことは難しいので、報告を行うこと・次回出勤時の振り返りを意識します。お子様の状況をもっと共有できたらという声もありましたので、複数名でそれぞれの視点から支援記録を付けるなど工夫したいと思います。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	13		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	13		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8	5	まだ該当するお子様の受け入れがありません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8	5	まだ該当するお子様の受け入れがありません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	1	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	1	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	2	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	9	4	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	12	1	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	1	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	12	1	プログラムとして実施はしていませんが、日頃のお子様の様子や状況など必要に応じて、事業所内での声掛けの仕方などアドバイスはさせて頂いています。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	13		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	4	コロナ前は、事業者内で保護者様同士の茶話会などのイベントを開催していました。来年度は是非開催したいです。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	13		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	13		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10	3	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	13		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	13		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	3	保護者様を通して医師の指示を共有しています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	1	事例集はありますが、職員全員での共有ができていないか見直し、再度共有の徹底を図ります。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	1	虐待防止の研修を行い、職員間でも日々お互いの行動を確認しあっています。普段からどのような対応が虐待になるのかを話し合い、意見交換しています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	13		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。